

新館長就任講演会

考古学の魅力にはまる

公益財団法人福島県文化振興財団副理事長
兼 福島県文化財センター白河館長

石川 日出志



天王山式土器 能登遺跡（会津坂下町）

2022年8月20日（土）

福島県文化財センター白河館

石川日出志館長のプロフィール

出身 昭和 29(1954)年生まれ 67 才

新潟県出身

略 歴 明治大学文学部考古学科卒業

同大学大学院文学研究科博士課程中退 文学修士

現在、明治大学文学部教授

福島県文化財センター白河館館長、公益財団法人福島県文化振興

財団副理事長を兼務

主な著作 『農耕社会の成立』 岩波新書 2010 年

『「弥生時代」の発見 弥生町遺跡』 新泉社 2008 年

『考古資料大観1 弥生・古墳時代 土器 I』(共編) 小学館 2003 年

考古学の魅力にはまる

石川 日出志 (いしかわ ひでし)

【導入】 私は考古学の道を歩んで約半世紀になりますが、ふりかえてみるとその最初から、そしてその後も繰り返し福島県内の考古学に魅せられ、導かれてきたと気づきます。それゆえに、このたび<まほろん>館長を仰せつかったことはとても光栄だと感じます。本日は「新館長就任講演」として、自己紹介を兼ねつつ、福島県の考古学にどのように牽引されてきたのかをご紹介します。現在は弥生時代を専門としていますが、<ふくしまの考古学>の**刺戟**がなければ私の考古学はまったく異なる方向に行ったと思います。ですから、本日の「考古学の魅力にはまる」という演題の中には、じつは<ふくしまの>という語が隠れています。

0. 石川の基本情報

- ・1954 (昭和 29) 年 11 月 27 日, 新潟県北蒲原郡分田村 (→水原町→阿賀野市) 生まれ。
- ・小学校 6 年生時の修学旅行=鶴ヶ城 (会津若松城)・飯盛山・裏磐梯・野口英世記念館
- ・新潟県立新発田高校→明治大学文学部考古学専攻～大学院博士後期課程 3 年在学中退→明治大学文学部助手・専任講師・助教授・教授 (～現在)
- ・専門: 考古学, 弥生時代, 日本列島各地の地域性と相互関係, 弥生土器の型式学, 「漢委奴國王」金印など。北海道から中国本土までの実物資料を扱って弥生時代を考える。

1. 考古学との接点のはじまり 【図 1・2】

(1) 新発田高校で地歴部に入って農村地理から土器・石器に関心が移る。

顧問関雅之との出会い。しかし「高校生を発掘に連れてくと人生を誤る」と距離を置く。専門性への関心が深いふたりの同級生: 島吾郎 (地理学!)・阿部朝衛 (考古学!)

(2) 2 年生秋 (1971 年 10 月 21 日), 村上市滝ノ前遺跡発掘調査 (竪穴住居 3 基) に参加。

発掘資料を放課後に水洗い。石川「この土器は何ですか?」→関「高校生にもなったら自分で調べなさい。図書室にある『日本考古学講座』4 の東北地方を見なさい」→図書室へ。
*「あ、天王山式土器っていう、弥生時代の東北地方の土器なんだ」→人生の転機に。

2. 大学生として考古学を学ぶ: 一浪ののち大学へ入学して考古学を専攻

(1) 関先生の教え

- i) 旧石器時代から中世の考古学まで学びなさい。→広い視野と方法論
- ii) 明治期から最近までの考古学の歴史を学べ。→自分の考えは、本当にオリジナルか?
- iii) 実物資料をよく観察しなさい。→モノがもつ情報に気づくためのトレーニング。
- iv) 発掘資料だけでなく、戦前から採集された破片などにも注目しなさい。→発掘遺跡の情報は点でしかない。それを面に広げるには戦前から採集された断片的な資料を拾うこと。

(2) 大学 1～2 年次に行われた実家裏の横峯 A・B 遺跡 【図 3】

- ・自分が発見した遺跡で、大規模な土取り計画があることから町教委に手紙で発掘要望。
- ・自ら発掘を主導することに (～報告書作成まで行う)

【横峯 A 遺跡】 縄文時代晩期後半の竪穴住居 1 基と縄文晩期～弥生後期の土器・石器。

【横峯 B 遺跡】 縄文時代中期の竪穴住居 14 基と古代住居 2 基，縄文土器・石器，古代土器

3. 発掘資料整理の指針となった福島県内の考古学

(1) 縄文晩期後半～弥生時代初期の土器研究 【図 4】

- ・目黒吉明 1962「福島県田村郡御代田遺跡について」『東北考古学』第 3 輯
→ 東北地方における弥生時代の始まりを考える上でもっともまとまった資料の研究報告。最初期の現在でも議論の基準となる土器群。
- ・馬目順一・古川猛 1970「福島県郡山市一人子遺跡の研究—所謂亀ヶ岡式土器終末期の吟味—」南奥考古学研究叢書 I
→ 縄文晩期後半の土器群を編年的に整理するだけでなく，土器の組合せの変遷や，東日本のなかの南奥（福島県域）の地域的特色を描き出す。
- ・中村五郎 1976「東北地方南部の弥生式土器編年」『東北考古学の諸問題』東出版寧楽社
→ 福島県内の弥生土器編年を基準として北陸・関東から北海道までの広域に分かる年代基準を構築。

(2) 縄文時代中期の土器編年をもとに総合研究 【図 5】

- ・驚異の卒業論文： 丹羽茂 1971「縄文時代における中期社会の崩壊と後期社会の成立に関する試論」『福島大学考古学研究会研究紀要 1』（復刻版 1972 年）
→ 福島県域の縄文中期中頃～末の土器編年を構築し，その上で中期から後期へと遺跡の規模や数が激変することの背景を考察。環境への適応によって発展した社会が，その人口増を支える生業の開発などができなかったために，人間により食料採集が自然の生産量を上回る矛盾をもたらしたと解釈。

(付) 古代土器については，当時多賀城跡の調査研究が進展して編年整備も進み，東北古代の考古学研究が大きく進展し始めているのを知り，意気を感じた。

4. 私が進む道は???

(1) 大学 2～4 年次に千葉県の古代集落遺跡の発掘調査報告書作成に従事。

(石田広美・金子真土・松村恵司ほか 1977『山田水呑遺跡』山田遺跡調査会)

- 研究の最先端を切り開く院生たちに驚嘆し，卒業後すぐに帰郷する予定を変更して大学院を目指すことに。

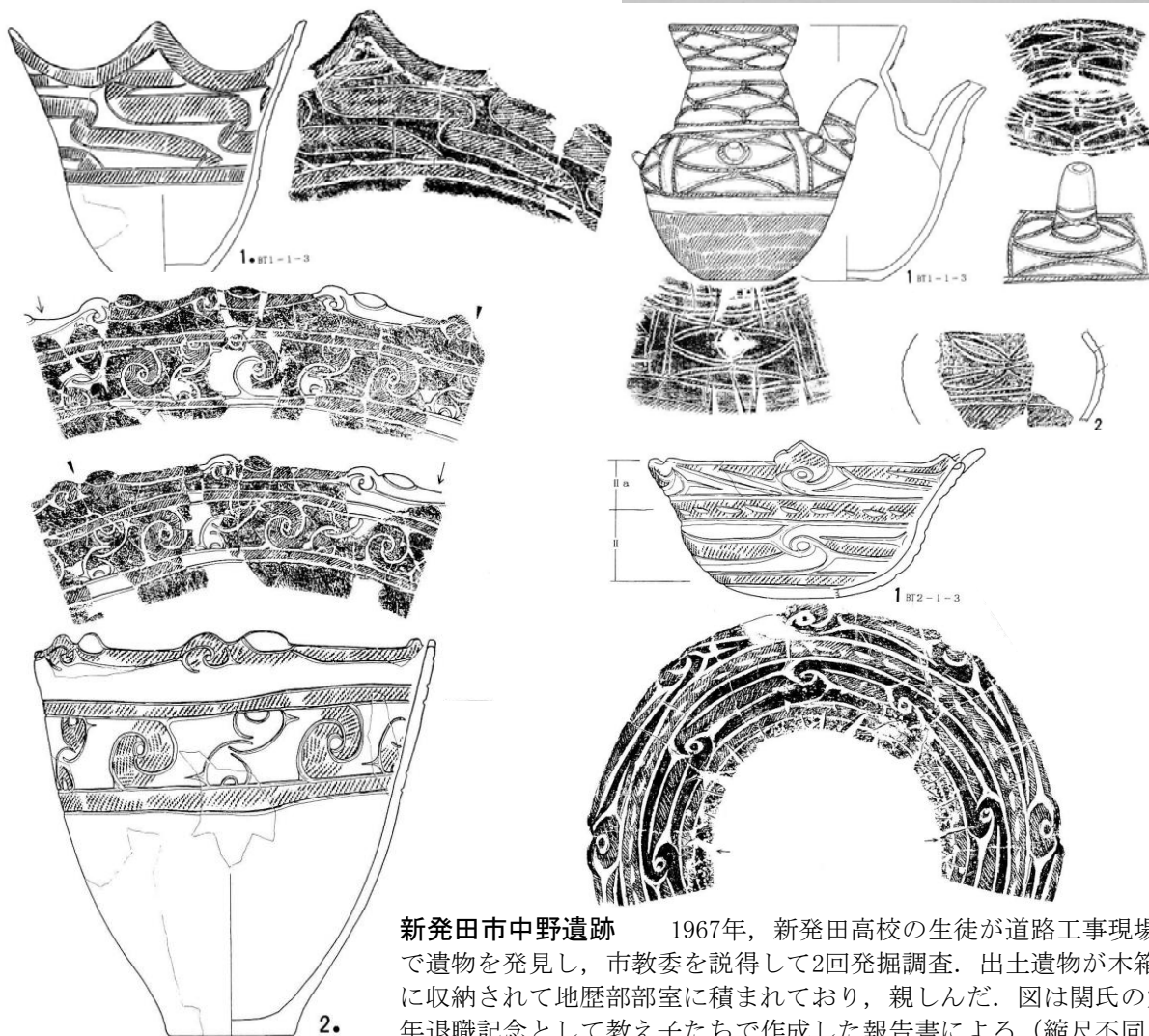
(2) 卒業論文テーマ：二つの選択肢

- i) 第一希望： 丹羽論文にあこがれて縄文時代中期の土器編年（新潟県域）を構築する！
→ しかし，丹羽論文の土器編年部分に近づけるには 2 年以上を要すると断念。
- ii) 第二希望： 目黒・馬目・中村三氏の成果に導かれながら，中部・関東・東北南部の縄文時代晩期末から弥生時代中期初めまでの土器研究なら 1 年で書けそうだ。
→ 理想にまい進するのではなく，現実的・打算的な道を選んだ。
→ 2 年後の 1980 年 3 月，博士後期課程への進学が決まると，指導教授から，西日本の弥生土器・古墳時代土器・青銅器，朝鮮半島の土器・青銅器，中国における稲作起源の研究を命ぜられる。

以上

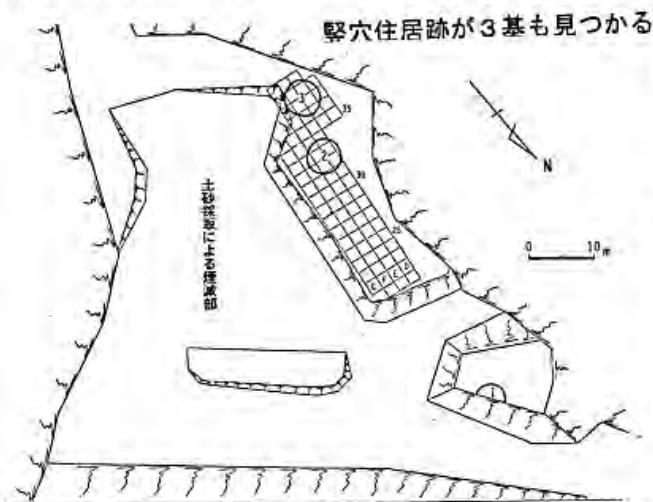
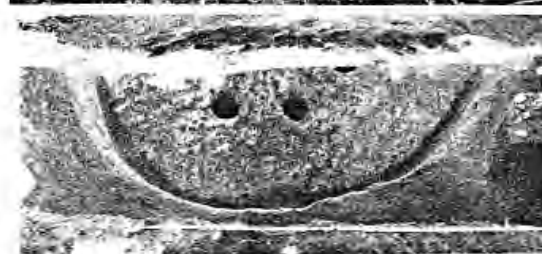
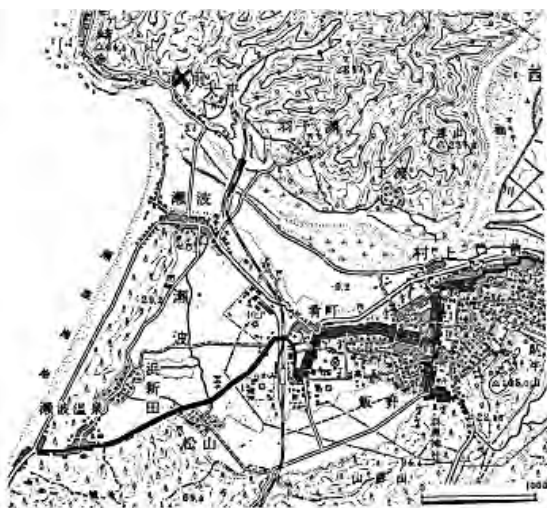
わが師・関雅之（1937. 02. 09-2019. 04. 04）

東京生まれ，1943年柏崎に疎開．柏崎で遺跡の魅力に惹かれ，國學院大學・同大学院で考古学を学ぶ．新発田高校教員（1963-71年度），新潟県文化行政課（72-76年度）ののち新潟中央高校・村上高校で教鞭をとる．新潟県内の縄文時代～中世の遺跡調査を担当し，新潟県域の考古学史，弥生文化，玉作遺跡，黒曜石，磐舟柵などの研究を進めた．県在職中，行政発掘の仕組みづくりを行ったことでも知られる．



新発田市中野遺跡 1967年，新発田高校の生徒が道路工事現場で遺物を発見し，市教委を説得して2回発掘調査．出土遺物が木箱に収納されて地歴部部室に積まれており，親しんだ．図は関氏の定年退職記念として教え子たちで作成した報告書による（縮尺不同：北越考古学研究会1997）．縄文時代後期～晩期．

図1 師・関雅之と新発田市中野遺跡の遺物

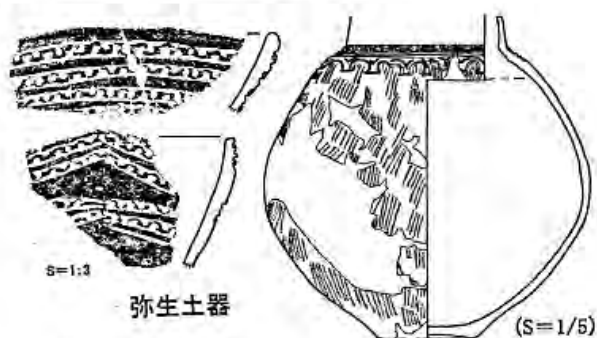


新潟県 村上市滝ノ前遺跡

吉村 大塚さんとは対照的に、石川さんは高校生の時からいわゆる「考古ボーイ」だったと聞いています。

石川 私の世代、いまの五、六十代では、大学に入る前から考古学にはまる少年が多かった。私自身も高校二年生のときに、考古学の世界にある日突然入ってしまった。出身は新潟県でして、高校に入学してすぐ地歴部に入ったのですが、私は歴史地理に興味があって、最初は考古学をやってみるはなかった。それがひょんなことから発掘に行くことになったんです。

部の顧問に岡雅之という先生がいらして、毎年発掘をやっておられた。先生は「人生を誤るから、高校生は絶対発掘に連れて行かない」という主義だったんですが、私の友人は中学時代から考古学にはまっていた、先生を拝み倒して連れて行ってもらうことになった。ついでには石川、お前



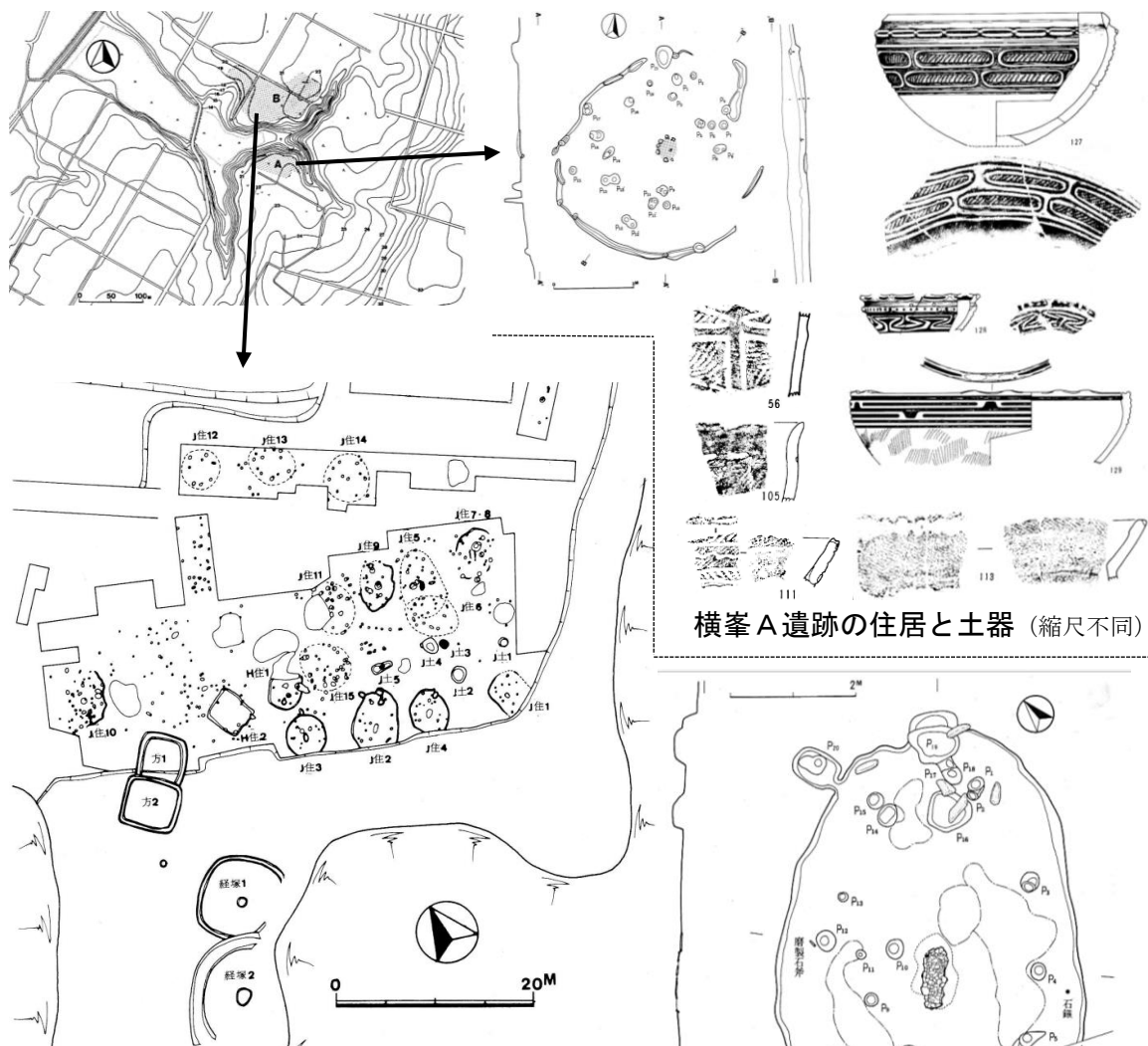
もついて来い、と。「面倒臭いな。気が向いたら行くわ」という感じでいたんですが、なぜか知らないけれども気が向いたんですかね。行って、弥生時代後期の住居跡を発掘したんです。出てきた土器を学校に持ち帰り、先生に「これ何ですか」と聞いた。図書室に河出書房から出ている『日本考古学講座』という本があるから、弥生時代の東北地方の所を自分で調べてみなさい、と。それで見てみると、自分が持ち帰って洗った土器と同じものが本に出てくる。これでもうだめでした(笑)。

大塚 それはもうだめだね(笑)。

石川 東北大学の伊東信雄さんの書かれた弥生土器実測図を全部描き写して、「もう俺は考古学」ということですね。

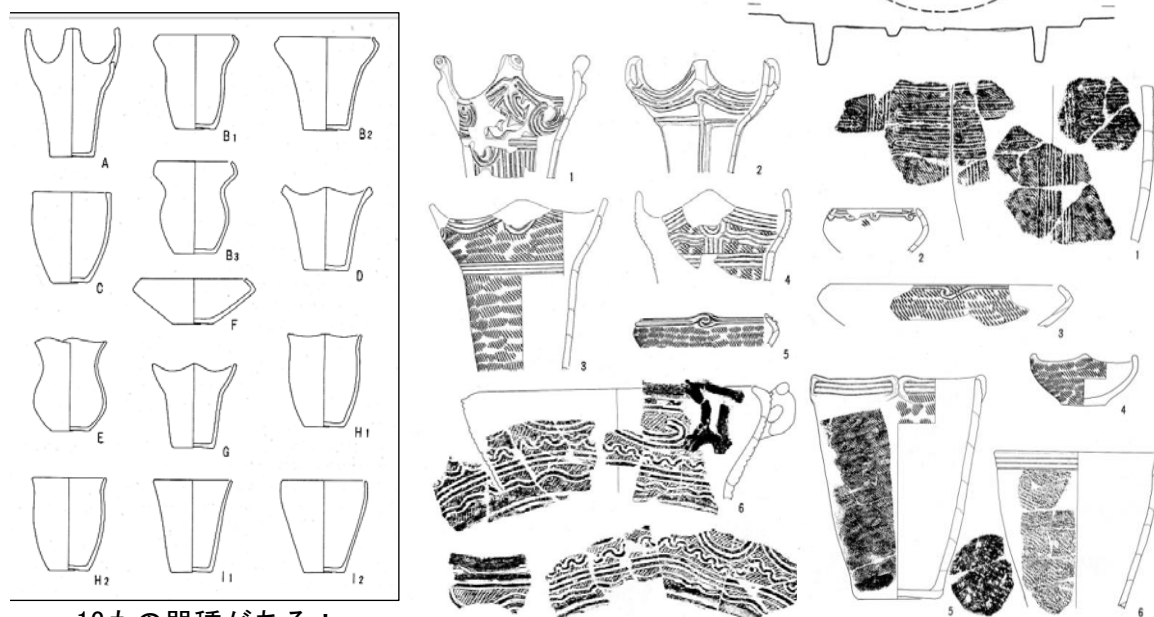
私の転機

図2 人生の転機となった新潟県村上市滝ノ前遺跡の発掘調査(1971年)と天王山式土器



横峯A遺跡の住居と土器 (縮尺不同)

横峯B遺跡全体図



13もの器種がある！

横峯B遺跡第3号住居跡と出土土器 (縮尺不同)

図3 実家裏の横峯A・B遺跡 大学1・2年時に自力で発掘。福島に学ぶ起点となる。

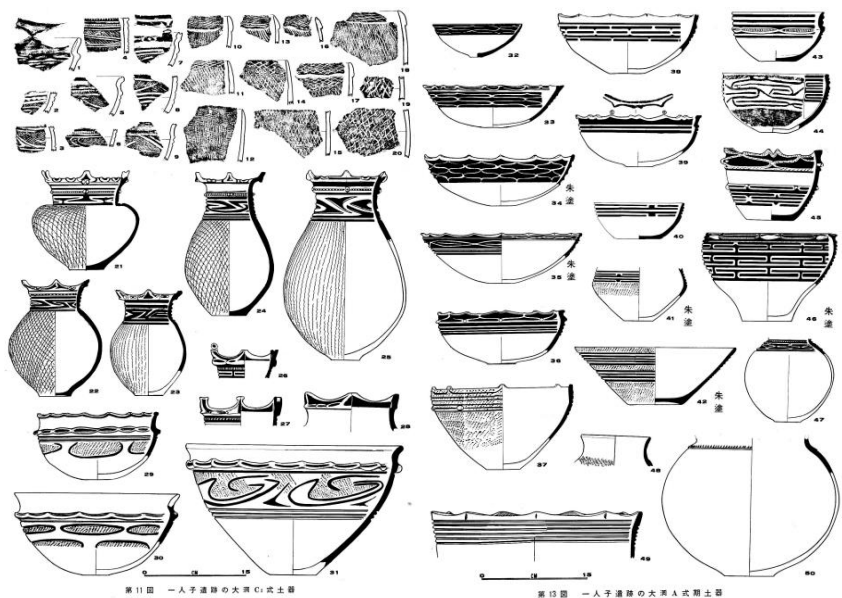
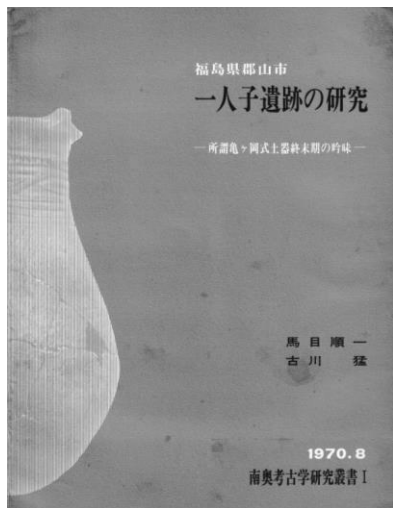


図4 縄文晩期研究の指針となった調査研究論文 (馬目・古川1970)

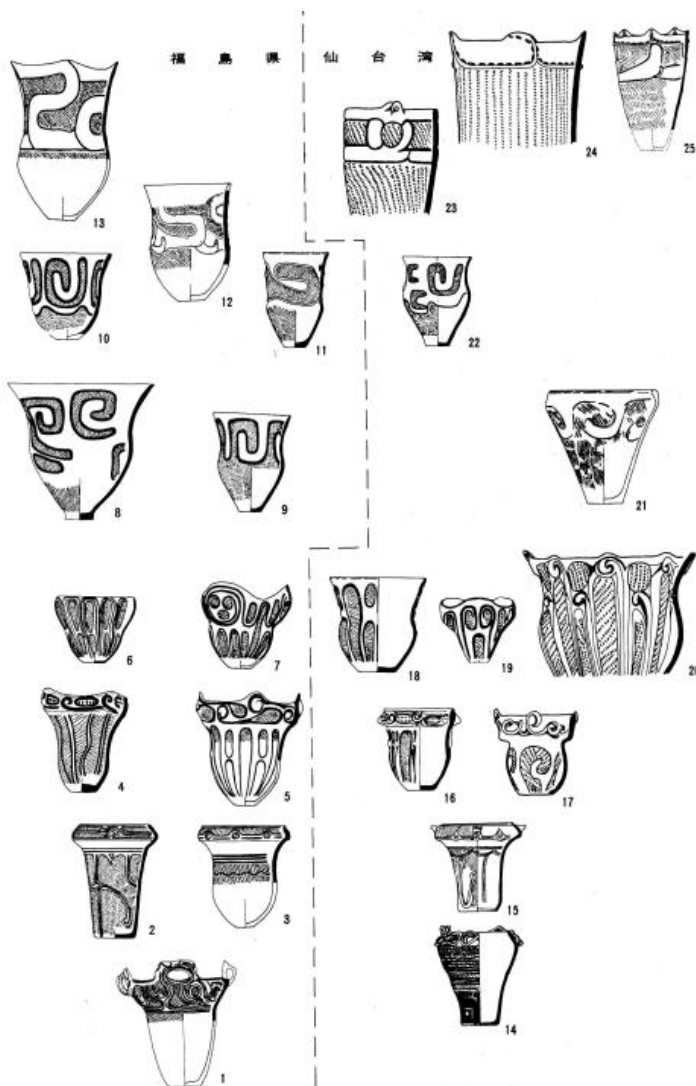
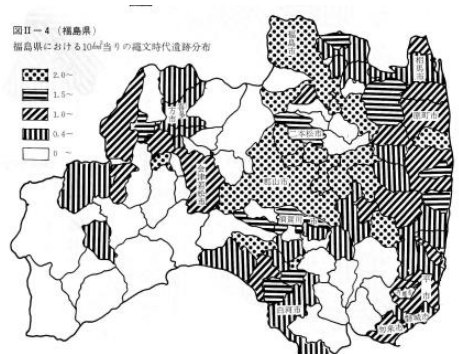
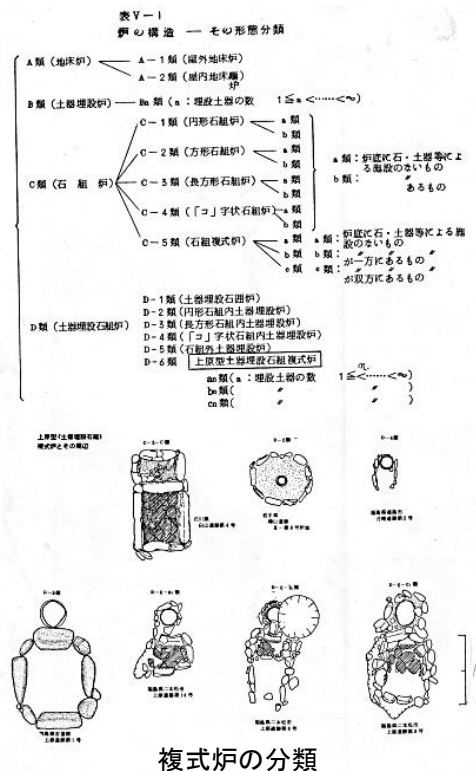


図5-1 中期縄文時代中・後葉東北地方南部における厚胎形土器の基本的変遷 (模式図) 縮尺不同。
1・3・4・8・10-宮城郡上原遺跡 (丹羽・丹羽 1970)、2-福島市次郎土遺跡、5-7・11-13-二本松市上原遺跡、9-郡山市久保田河邊
跡、14-宮城郡大田原遺跡 (林謙作 1965)、15-宮城郡大田原遺跡 (林謙作 1965)、16-18・19・22-宮城郡南郷遺跡 (林謙作 1965)、後
藤原市 (1969)、17・20・23・24-宮城郡土間遺跡 (宮城良光 1965)、21-宮城郡長巻遺跡 (伊東信雄 1969)、25-宮城郡西ノ沢遺跡 (後
藤原市 1967)

土器編年



福島県内の縄文時代遺跡の分布密度



複式炉の分類

図5 あこがれた福島大学の卒業論文 (丹羽1971)